



# マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページが新しくなりました

マルト商事

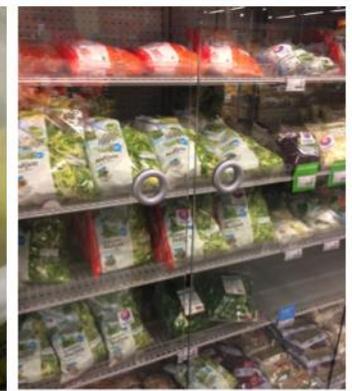
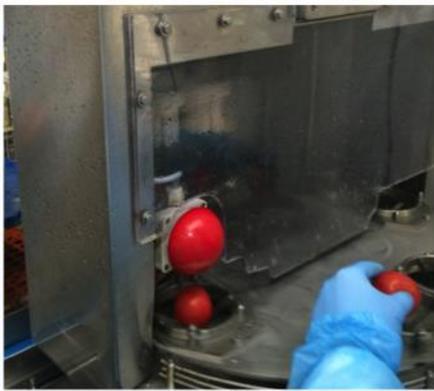
検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ 

2月号 JAN 2015

<http://www.maruto-shoji.co.jp>



## 農業大国オランダへ

「オランダ」といえば...。私の頭に浮かんだのは、チューリップ、風車、サッカー、長崎出島、蘭学、ハウステンボス。農業関係ですと、施設栽培、種苗メーカーなどが有名。。この程度のイメージしかありませんでした。皆さんは如何でしょうか。

1月14日～22日の日程でオランダに行ってきました。目的は先進的な農業設備並びに野菜加工機械の視察、農業王国オランダの青果流通の勉強です。

農業王国オランダと書きましたが、オランダの国土は日本の九州と同じくらいの面積しかありません。ちなみに人口も九州全体と同じくらいの1640万人。しかし、小さいながら農産物の輸出大国としての地位を確立しています。農産物輸出額は893億USドルとアメリカに次ぐ世界2位（2011年）です。勿論国の戦略もあるのですが、それを支えているのが、先進的な農業技術であり、先進的な機械であると思います。

私はオランダが小さい国土ながら、農産物輸出大国として存在しているのは、自国の適正にあった付加価値の高い品目生産に特化したからであると考えてます。なので、それに伴う設備・機器に関しても積極的に開発を行っており、勿論日本の農業技術、機械も優れていると思いますが、日本と比べても特化されたものについては先進的なものが多いと思います。

今回の訪問では、生産・貯蔵・加工・流通と段階毎に視察させて頂きました。品目は馬鈴薯・玉葱・人参・葉菜類です。今回オランダ滞在5日間で10社程の企業様を訪問させて頂きましたが、キーワードは「カット野菜」であると思いました。

スーパーマーケットでは、ホールでの野菜は置かれていません。馬鈴薯・人参・玉葱くらいがかろうじて陳列されている程度で、葉物に関してはほぼカット野菜として販売されています。カット野菜の種類は非常に豊富で、例えば玉葱だけでも、剥き玉葱、スライス玉葱、ダイス玉葱と規格・サイズの異なる商品が多数品揃えされています。日本においては、近年急速にカット野菜が増えてきたように感じましたが、今回オランダの青果物売り場を見て、まだまだ増えるであろうと感じました。

また、カット野菜は小売りだけでなく業務用においても広く流通していました。業務加工向け野菜においてもまだまだ日本ではホール野菜での流通が主流であると思います。オランダではレストランや食堂といった業務用野菜もカット野菜での流通が主流となっていました。チェーン店ではない業務筋でもカット野菜が使用されており、日本でもまだまだ余地のある市場であると感じました。

設備に関しても日本にはまだ導入されていないITを活用した仕組みなどを見学しました。オランダでは農業でもそうですが、ITの活用方法が非常に上手であると感じました。

今回の視察ではマルチ商事とほぼ同様の業務内容の会社様も訪問させて頂きました。玉葱加工一本で勝負している会社様です。弊社以上の生産業務を弊社の半分程度の人数で行っていました。そこではITの活用と徹底した機械化を行って効率の良い生産体制を確立していました。

彼らが雇用しているパートタイマーの時給は2000円を超えており、また、近隣国の安い労働力から生まれる価格競争に対抗するためには機械化が必須であったとのことでした。弊社も同様であると感じました。埼玉県最低雇用賃金は年々上昇し、近県との賃金格差は時給100円以上となっています。現状のままであれば、剥き玉葱という低単価・高コスト商品を多数競合がある中で製造販売し、健全な企業活動を継続していくということは難しくなっていくものと思います。今回このタイミングでオランダ視察が出来たことは、マルチ商事にとっても非常に良かったと考えています。お客様に一層喜んで頂けるような業務構築へのアイデア・ヒントが沢山ありました。

「オランダはすごい」的な話を書いて参りましたが、今回本当に感じたのは「日本の食品関連衛生レベルは非常に高い」「日本人のモラルは非常に高い」ということです。確かにオランダの機械や仕組みは効率的で優秀です。しかし、「食」に対する考え方の違いでしょうか。衛生に対しての取組、設備はオランダとは比較にならない程日本のレベルは高いです。

機械化と衛生レベル強化、そして従業員のレベルアップ。この3つの取組を社としてしっかりと行っていくことが事業継続の必須条件であると強く感じました。お客様から様々なご意見を賜りながら先述の3点を軸に事業を進めて参りたいと思います。

#### <オランダ農業豆データ(2011年時点)>

主要生産品目(日本との比較) 小麦130万t(日本86万t) 馬鈴薯677万t(日本250万t) てんさい573万t(日本376万t)  
農産物輸出額893億USD(世界2位) ジャガイモ(世界1位) トマト(世界2位) キュウリ(世界2位)

## 営業中村のマルチ便PLUS!

今月はマルチ商事の玉葱産地情報&見通しをお届けします!



取扱産地	産地状況&今後の見通し
国産(北海道)	昨年の北海道産は全体的にサイズが小さく、加工に苦労しました。昨年の同時期と比べて作業性の良い大玉を中心に入荷しております。品質もよく、不良品の発生はほとんどありません。3月までは同価格、4月~5月の北海道産はCA貯蔵コストがかかるため値上げとなる見込みです。
中国(甘肅省)	例年、同時期の中国産は月ごとに歩留まりが低下するため価格は上昇傾向にあります。今期も産地での加工歩留まり低下は発生しておりますが、中国産玉ねぎの注文が減少している影響で相場は低迷しています。品質良好で芯腐れなど不良はほとんどありません。
アメリカ(ワシントン州)	昨年と同時期に比べて品質は安定しています。小さいサイズの玉ねぎにちらほらと傷んだ玉ねぎが入り始めましたが大きいサイズにはとくに問題ありません。マルチ商事では北海道産の国産リスクヘッジとしてアメリカ産をオススメしております。ぜひご検討ください。

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。

お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315